

ウッドバッジ実修所第二教程 カブスカウト課程 セッションの目標

	セッション	セッションの目標
第1日	§ 1 実修所について (30分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウッドバッジ実修所の目的と目標を理解する。 2. ウッドバッジ実修所の運営を理解する。 3. コースの日程を理解する。
	§ 2 指導者の役割と責務 (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウト隊の運営に必要な知識と技能を理解し、実践できる。 2. 自己の訓練ニーズを整理し、自分自身がコースで学ぶべき内容を明確にし、主体的に解決する意欲を持つ。 3. ちかいとおきての理解を深める。
	§ 3 カブスカウト隊のプログラムⅠ (150分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウト隊の集会（組集会・隊集会）を体験し、自隊の組織と運営上の問題点と課題を認識する。 2. 実施した集会について、自隊との違いについて評価する。 3. 「カブスカウト活動の目標」がプログラムに深く関わっていることを理解する。
	§ 4 カブスカウト隊のプログラムⅡ (120分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウト活動の基本的なプログラムプロセスを再確認し、より深く理解する。 2. カブスカウト部門のプログラムの特徴をより深く認識する。 3. カブスカウト隊におけるスカウト教育法の運用について認識する。
第2日	§ 5 プログラム企画Ⅰ [ニーズの反映] (120分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラムプロセスにおいて、スカウトの興味や憧れ・保護者・社会・スカウト運動のニーズを活かす方法を認識する。 2. 年間計画に、カブ隊の活動に相応しい活動目標を設定することができる。 3. テーマの意義を理解し、スカウトにとって魅力ある、期待が高まるテーマが作成できる。
	§ 6 プログラム企画Ⅱ [プログラムの立案] (180分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. スカウトスキルを活用したカブ部門に相応しいプログラムを企画できる。 2. プログラム委員（会）のアイデアを活かし、より楽しい多様なプログラムを企画することができる。 3. テーマを活かし、技能・工作・ゲーム等を利用した多彩な野外活動プログラムを計画することができる。
	§ 7 プログラムへのアプローチ (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. カブスカウトにプログラムを魅力的で夢のあるものとして動機付けをすることができる。
	§ 8 プログラム展開の実施計画 (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月間プログラム計画を基に、隊集会実施計画書が適切に作成できる。 2. 隊集会につながる組集会実施計画書が作成できる。 3. 隊長として、組集会実施計画書の作成の支援・指導ができる。
	§ 9 プログラム展開の準備活動 (120分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラムの準備・展開を充実させるためのさまざまな資源の活用方法について認識させる。 2. プログラムの実施展開のための役割分担、資材準備、安全管理ができる。
第3日	§ 10 プログラム実習 (270分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画書に基づいて組集会・隊集会を実際の活動として展開することができる。 2. 表彰や進歩記章の伝達の場合、スカウトの意欲を高めるための動機付けとして活用することができる。 3. スカウトに、夢のある魅力的な野外活動プログラムを提供できる。
	§ 11 プログラムの評価 (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラムには、達成すべき目標があることを理解し、実施後の評価ができる。 2. スカウト運動の目的やカブスカウト活動の目標の視点で、プログラムを評価することが重要であることを認識する。 3. § 5～10を通して、企画・計画・実施の評価が出来る。
	§ 12 保護者・地域社会へのアプローチ (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者のニーズ、地域社会のニーズについて認識する。 2. カブスカウト活動では、家庭での活動も重要なため、保護者との良好なコミュニケーションが不可欠であることを認識する。 3. スカウトの成長にとって、スカウト運動が役立つ教育運動であることを保護者に伝えることができる。
	§ 13 プログラムの改善 (90分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラム実施後の適切な評価を踏まえて、プログラムを改善することができる。 2. 自隊のプログラムの改善点を発見し、より良いものとなるよう見直すことが出来る。
	§ 14 キャンプファイア (60分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャンプファイアの体験実習を通じて、その教育的意義を理解する。
第4日	§ 15 第三教程（実務訓練）に向けて (60分)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第三教程（実務訓練）の意義を理解し、その具体的な取り組みの方法を計画する。 2. 隊長に必要な知識・技能・心構えを理解し、自己研鑽を進めることができる。 3. インサース・サポートについて理解する。